

【委員からの主な意見】

1. 宿泊税活用施策案について

(1) 施策1 戦略的な観光地域づくり

(石巻グランドホテル 大槻委員)

- 優先すべき施策について、依然では周遊性向上のための二次交通対策が最優先だと考えていたが、今は戦略的な観光コンテンツづくりが大事だと思う。
- 観光客への訴求力を高める取組も必要
- 圏域のスポーツ誘致も納税者にとっては良い取組なのでは

(漁師民宿桜荘 桜井委員)

- 宿泊税の活用施策案で優先順位が高い施策は戦略的な観光地域づくり。まず何をするにもお客様を呼び込むためのものがなければ、外から何を目的で来るのか分からなくなってしまうので、地域による魅力的な主力になる観光地というものを作っていくことが大事だと思っている。

(奥松島レーンホテル施設 三河委員)

- 優先度が高い施策は戦略的な観光地作りだと思う。やっぱりコンセプトをしっかりと決めるというのが最優先だと考えている。この東松島市と女川町、石巻市がタッグを組んで集客をするためのコンセプトをしっかりと決めるのがまず第1番なのかなと思う。
- 具体的な活用策を考えてみたが、コンセプトは「体験するっちゃ松川巻」。圏域の3市町から1文字ずつ取った。このようなキャッチフレーズを用いて、3市町で何かを体験しようといったコンセプトでポスターなどを作って周知していくと、発展していくのでは。仙台などと比べると利便性が低く、魅力となるものも少ない。何かしら体験できる宿泊を磨き上げていくと、このエリアに行けば何かしら体験できるというイメージができていく。
- 軸になりうるのはやはり金華山や田代島。もともとあるコンテンツを活用して、そこに宿泊したレシートで船の値引きなどの施策を組み合わせる。マリンスポーツも、宿泊レシートで割引、連泊すると割引率伸びていくなど。そういう連携があるとよいのでは。

(追分温泉旅館 横山委員)

- 戦略がとても大事。施策のコンセプトをしっかりと作り上げてから、ソフト面ハード面を整備し、そして最後にそれいかにプロモーションしていくかということが重要。
- 磨き上げたいコンテンツというのは大事。今あるものを磨き上げる。新しいものを作る。それに加えて、消えそうなものを守るという方法がある。消えそうなものを守るという部分は重要でないように見えるが、郷土芸能、食など、地方には色んな暮らしがあった。そういう在り方を大切にして、伝えていくことが重要。
- 今は暮らしが多様化しているが、残していきたいものというものは絶対ある。だが人口減少で担い手がない、職人がいない。このような文化的な部分は観光と結び付けられると考えている。こういう暮らしを守っていきたい。
- どんな戦略を組んでも基本となるのは山や海などの自然。今、自然が侵されてきている。そういった部分を長期のビジョンで意識していく。観光と暮らしを常に一体化させるという部分が大事だと常々考えている。
- 県内の過疎地域として定められたエリアは観光としては自然が守られている。それは人が暮らしているので守られているとうこと。そういう守られてきた地域には昔からの守られてきた良

い文化があるので、それをなんとか観光と繋げられないかと考えている。

- 余談だが、三陸道のインター名について、過疎地域である北上、雄勝、牡鹿が案内板に抜けている。やはり知名度が大事なので、看板は建てられないにせよ、案内板には必要。河北インターは河北北上雄勝インターというような。
- 短期的に取り組む施策もあるが、長期的に、30年、50年後にどんな宮城にしていきたいかという部分をじっくり考えても良いのでは。

（２）施策２ 周遊性向上のための二次交通対策

（石巻グランドホテル 大槻委員）

- 交通対策に関しては即効性があり、事業者にとって分かりやすく恩恵もあるように思えるが、まず地域に魅力がないと交通整備をいくらしたとしても、観光客は来ない。目的があって観光に来たい人は必ずその魅力のところにどんな手段を使ってでも来るので、まずはこの地域の戦略的な観光地域作りをまず固めた方がいい。

（漁師民宿桜荘 桜井委員）

- 二次交通対策は、交通の対策として各場所を繋ぐルートなどの対策は優先順位が1番下にはなるが、魅力的な観光コンテンツを作りつつ、その地元を観光客が簡単に動けるような対策は重要だと考えている。全体として大きく動く分には、優先順位が下がるのかなというイメージ。

（奥松島レーンホテル施設 三河委員）

- 二次交通対策については、この圏域の地域柄必須だと考えている。

（割烹民宿目黒 目黒委員）

- オルレやみちのく潮風トレイルを歩きたい方々は、全部の場所を歩きたいと考えるものだと思う。そのように繋がっていくと、施策の優先順位は決まってくる。やはり二次交通は重要。時間を気にしない旅もあるが、時間が限られて方は動ける範囲で考えると思うので、そういう迷った人が見てすぐここに行けば良いと分かるようなWEBやマップがあれば良い。紙のマップだと、見せながらコミュニケーションが取れるので、お客さんに宣伝することで好奇心が湧いたりすると思う。

（追分温泉旅館 横山委員）

- 三陸地域が震災やコロナを経て充実したというのは、沿岸部はマイカー利用が多いので三陸道の影響が大きい。ただし、無料なのもあり、石巻を通り過ぎて目的地に直接的行ってしまうという部分もあるので、そのあたりを踏まえて良い方向に三陸道を活用しながら観光客を受け入れたい。北から仙台に行く人は、仙台に向かう途中で石巻に泊まっても良いと思う。

（３）施策３ 快適な旅行環境のための受入環境整備

（石巻グランドホテル 大槻委員）

- 快適な予防環境のための受け入れ整備については、設備投資補助的な事業は、宿泊事業者にとって平等に恩恵があるようには思えない。コストがかかる点も問題だと思う。
- DXの部分に関しては、意識啓発という部分に関してはもう特に必要ないと思っている。何を具体的に導入するかというところを詰める必要があるのでは。
- 宿泊人材の確保に向けたマッチング事業に関しては、人材の数をまず確保するというところが優先度は高いと考えている。
- 地域の連携体制も必要だが、圏域外のDMO、観光協会など色々な団体とも連携する体勢も必要に

なると思うので、そこも検討していきたい。

（漁師民宿桜荘 桜井委員）

- 3番目としては、受け入れ環境整備が必要だと思う。やはりお客様を呼ぶだけ呼んで、宿泊施設がないという風にならないよう、お客様の要望に応えられるような宿泊設備や、人材確保などをしていくことが大事。

（奥松島レーンホテル施設 三河委員）

- 快適な旅行環境のための受入環境整備。パンフレットだったりスタンプラリー、クーポンなどを準備すると良いのでは。
- セミナーなどは効果が薄いのではと考えている。講師を呼ぶのはコストがかかるし、事業者は忙しくて参加できない。実際にお客さんや施設に宿泊税を充当してほしい。

（割烹民宿目黒 目黒委員）

- インバウンドについては、やはり受け入れる側の努力が必要だができていない現状。携帯の翻訳機能などを使って現地では対応できるが、ネットでの予約受入のところではストップしてしまうので、そういう部分に県のアドバイスがあると良い。
- OTAなどを周辺の事業者にも勧めるが、高齢の方が1人で運営している宿などでは中々導入できていない。なのでそういう部分のアドバイスが県からあって、地域にインバウンドが来ると魅力があるコンテンツとなるのでは。

（４）施策４ 効果的なプロモーションの展開

（石巻グランドホテル 大槻委員）

- エリアとしてのプロモーションイメージの作成には時間とコストの両方がかかるが、ターゲット毎に色々異なるプロモーションの作成と発信が必要だと考える。
- 冬季の観光のコンテンツがやはり弱いと考える。夏ならばセリ、冬ならば牡蠣というような部分で、観光イベントができないのかなと考えている。
- SNSのインフルエンサーを活用したプロモーションとして色々取り組みは行っているようだが、その場で終わってしまっている部分があり、効果があまり出てないように思われる。具体的な動きが今後必要になってくるのかなと思う。

（漁師民宿桜荘 桜井委員）

- 2番目は観光プロモーションだと思う。観光について SNS や電話で問い合わせいただいたり、観光協会の方に連絡して聞いたりする方が結構いるので、SNS やインフルエンサーも当然大事なのだが、まず県としてこういうコンテンツがここにはありますよっていうことを発信することも大事だと思っている。

（奥松島レーンホテル施設 三河委員）

- プロモーションも大事で、SNS やインスタ等色々なプロモーションのやり方があると思うが、そもそも施策の1から3ができてないといくらプロモーションしても効果があるのかが疑問。実際にプロモーションする内容をしっかり決めるということがまず優先的には高いと考えている。

（割烹民宿目黒 目黒委員）

- 圏域に観光に来る前に、可能であればAIなどを活用して誘客を行い、実際に圏域に来たら地域の事業者で補足するというような形のプロモーションもあるのでは。

2. 圏域での施策活用イメージ

(1) 施策1 戦略的な観光地域づくり

(石巻グランドホテル 大槻委員)

- 圏域で磨き上げたい観光資源コンテンツは、生産者と連携したアドベンチャーツーリズムの商品であったり、食材と日本によるインバウンド向けの商品であったり、防災ツーリズムという言い方が分からないが、震災から学びを持ち帰る体験だったり、文化体験などそういったコンテンツが、必要なのかなと思っている。
- ナイトタイムに関してはちょっとイメージがなかなか難しいが、石ノ森萬画館のナイト見学ツアーなどがあると面白いと思う。ナイトタイムの部分は確かに力入れた方がいいと思う。
- 納税者が、学びや体験楽しみを持ち帰ることができる商品作りに宿泊税を活用して欲しいと思っている。その結果として最終的に圏域が活気づいて、地域経済が刺激されるというところが望ましいと考えている。

(漁師民宿桜荘 桜井委員)

- 圏域での観光コンテンツについてだが、先日東松島市で航空祭があった。昨年の来場者が3万人に対し、今年は4万5000人と昨年に比べて1.5倍ほど増えている。コロナ禍の後ということもあるが、日本国内でブルーインパルス基地ということで唯一無二の強みを持っている部分があるので、このコンテンツをもう少し活用することも考えた方がいいのかなと思っている。
- 短期的な話だが、冬にも航空祭のような祭りを開催したとしたら、夏の航空祭と同様にピンポイントな集客が見込まれるのでは。ただしそれはピンポイントな集客だけであって、恒久的な集客ではないので、それぞれの地域で目玉政策というものを磨き上げたり、情報を発信していく必要がある。
- 自分地元の観光情報は分かるが、地元以外の地域の魅力は分からないので、宿泊事業者が観光客にどこをお勧めできる圏域の観光コンテンツを紹介する手軽なパンフレットがあるといい。冊子だと部数も置けず、勧めにくいので1枚程度のものです。

(奥松島レーンホテル施設 三河委員)

- 圏域での活用イメージについては、磨き上げたい観光コンテンツは金華山、田代島、嵯峨溪、大高森、神割崎というようなロケーションをエリアマップにしていく。体験型という点では、金華山だと鹿、田代島だと猫が周りに沢山いる。例えばその猫に名前と首輪をつけて、その子を見つけてねという体験で、その首輪のQRコードを読み取ると記念品をもらえるなど。
- 地域の重要な観光施設として、石ノ森萬画館や、あおみな、道の駅などがあると思うので、こういった商用施設の横の連携として、複数店舗巡ったら特典があるとまた行っても良いと思われるのかなと思う。
- この地域に魅力がないとお客さんがこない。石巻圏のパンフを見ていると、1年を通して色々な祭りなどはあるが、地域ごとでバラバラになっている。有名なのは川開き祭りや航空祭だが、イベントを集約して大きいイベントにして外部に発信していくということが必要なのでは。
- 金華山の大祭など明らかにお客さんが来るようなイベントのときは特別便の運行をしたり、飲食店は夜まで営業をするというような部分に対する補助があると良い。また宿泊した観光客にはタクシー代を補助するというような施策があれば地域に泊まってもらえるのでは。
- 石巻圏域内3市町をまたいで連泊した方に対する何かしらの補助があるというものがあると分

かりやすいのでは。

（割烹民宿目黒 目黒委員）

- 繁忙期・閑散期というものどの地域も同じで、仙台松島が忙しいときは石巻も忙しい状況となるので、閑散期をどうするかというところになる。仙台松島は閑散期でもお客さんは来ている。それは船や文化財という目的があるから。その仙台松島のコンテンツにと石巻圏域のコンテンツに繋がりを付けると良い。松島に行った観光客が今度は石巻にいつてみたくなるような紐づけを。そのような観光客目線で考えたやり方が必要。

（２）施策２ 周遊性向上のための二次交通対策

（石巻グランドホテル 大槻委員）

- 観光地への集客拡大に向けて必要とする移動手段や施策という部分に関しては、仙台からの送客支援という部分はやり必要であるが、そこでちょっと工夫して、例えば田代島の猫が有名なので猫バスとか猫電車などというものがあれば話題性があるのでは。
- 試験運用などが必要かもしれないが、圏域の周遊バスに関しては自動運転による観光周遊バスの実験誘致を実現できると、話題性として、注目されるのではないかと考えていた。

（割烹民宿目黒 目黒委員）

- 冬場には松島に牡蠣を食べにくる観光客が多いが、牡鹿でも牡蠣は盛んな時期となるので、食べ比べツアーのようなものも面白いのではないか。生産者は自分の牡蠣が一番美味しいという拘りがあるので、そういう熱意は観光客にも伝わると思う。なので、松島から牡鹿半島までの交通手段の補助があると良い。交通整備ができると圏域全体を味わってもらえることができるのでは。